

「URA×IR業務を担う事務職員」の取り組みと生み出す効果

内橋 彩奈、岸本 岬、荒川 理沙

大阪大学 経営企画オフィス

大阪大学「ワニ博士」



1. 「URA×IR業務を担う事務職員」育成プログラム概要

高度専門職の確保や事務職員の高度化が求められる中、大阪大学では外部調達にのみ頼らない**事務職員（承継職員）**を**経営企画人材**へ育成する**仕組みづくり**を推進している。その一環として2021年から「URA×IR業務を担う事務職員」育成プログラムと称し**事務系URAの学内公募**を行っている。**学内公募により選考**された職員は経営企画オフィス（全学的なURAが所属する教員組織）に2年間所属し、URA業務及びIR業務に携わる。

3年間で6名の職員が本プログラムによりURA業務及びIR業務に従事し、すでに1期生として1名が修了しており、**経営企画人材のキャリアアップも意識**して本プログラムは発展し続けている。



2. 業務事例・生み出す効果

経営企画DXシステム「ReCo」の構築・発信

コストの可視化を実現し、分析ツールを学内へ展開



事務職員としての決算業務経験が結実！
執行部への提言資料にも活用されています！

“ReCo”を用いた「データを踏まえた意思決定」の加速を学外へ発信



● 2024.8.20プレスリリース
→他機関からの問い合わせを受け
意見交換の場を創出
2024.8.30付科学新聞にも掲載

URAの想いを汲み取り
ながら学内外の関係者を
巻き込んで、“ReCo”の
独自性をアピール！！

“はばたく次世代”研究者育成3職協働プログラム

事務職員を巻き込んだ研究者・URAとの協働プログラムを構築・運営



3. 大阪大学 事務組織の展望

経営企画オフィス（事務系URA）以外にも多様な部署で**経営企画人材**を育成している。

2025年度以降、段階的に**事務組織の構造変革を実施**し
大阪大学の事務組織は**アドミニストレーター組織へと進化**する。

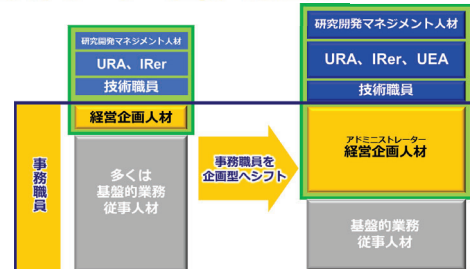


職員の育成から
組織の進化へ

構造変革のポイント

- 全学的に共通する基盤的業務の合理化
- 企画業務に注力する人材の育成
- 優れた人材を輩出する人事制度の改革

総長・理事・教員とともに
大学を運営



事務系URA メンバー紹介

1期生 (2021.10.1～)

うちはし あやな
内橋 彩奈
入職10年目

経歴
民間企業にて営業を経験後阪大へ入職。科研費の受入・執行や病院の収入に関する業務に従事。

事務系URA応募動機
入職時より研究支援に携わりたいと考えており、自身の研究経験や営業経験を活かして研究力強化に貢献できると考えたため。

たかはま かずし
高濱 和嗣
入職7年目

経歴
民間企業にて製品開発を経験後、阪大へ入職。部局での外部資金受入・執行業務、全学の決算業務に従事。

事務系URA応募動機
従来の事務による研究支援業務に物足りなさを感じており、自身の経験を活かして、より高度に研究活動に貢献したいと考えたため。

2期生 (2022.10.1～)

しらい たかし
白井 隆志
入職21年目

経歴
新卒で阪大へ入職し、全学の予算編成・決算報告、部局の会計係長などの財務業務を中心に従事。

事務系URA応募動機
大学における財務の重要性は高まっている。財務と研究支援両方を理解し、研究者にとって真に必要な大学経営を目指したい。

くにまき あゆみ
國政 歩美
入職10年目

経歴
新卒で阪大へ入職し、国内外資金配分機関、本部、部局等で一貫して学術/研究支援業務を担当。

事務系URA応募動機
事務的にのみならず、本質的な研究支援に携わるために、URAという立場が最適であると考えたため。

3期生 (2024.4.1～)

あらかわ りさ
荒川 理沙
入職10年目

経歴
新卒で阪大へ入職し、外部資金受入・執行、職員採用に向けた広報、給与支給等幅広い業務に従事。

事務系URA応募動機
大学という知的創造の場が大好きな自分にとって、URAという仕事には大学で働くことの面白さや魅力が詰まっていると感じたため。

きしもと みさき
岸本 岬
入職3年目

経歴
大学生協にて、食堂・書籍・購買を経験後、阪大へ入職。人事課で給与決定や退職手当業務に従事。

事務系URA応募動機
前職含め、学生目線/職員目線でしか大学を見たことが無く、研究者目線で大学を捉えなおしたいと考えたため。

